

寄贈図書の紹介

編集委員会

荒木肇著『自衛隊砲兵』

著者の荒木肇氏は、横浜国立大学大学院教育学修士課程を修了された日本近代教育制度史が専攻で、日露戦後から昭和戦前期までの学校教育と軍隊教育制度を研究しています。陸上自衛隊との関わりが深く、「自衛隊」という学校、「自衛隊警務隊逮捕術」などを並木書房から上梓しています。また、「偕行」に、「陸軍史の窓から」と題して軍事史に関する記事を連載中です。

今回は、戦争の勝敗を制する「戦場の女神」と称される砲兵が、ロシア・ウクライナ戦争でも活躍している現状を捉えて、砲兵の実体を、軍事専門家から一般の読者まで、分かり易く書き下ろしています。砲兵の基本的な任務や運用に加えて、火砲や弾薬の性能、観測、測量、射撃指揮の細部までイラスト付きで具体的に解説しています。また、陸上自衛隊発足以来の野戦特科職種の歴史や装備の変遷、更に、スタンド・オфф防衛能力や領域横断作戦能力を強化する新たな防衛戦略のもとで、野戦特科部隊の新たな役割と火力戦闘の

あり方を模索しています。この『自衛隊砲兵』は、砲兵の過去、現在、未来を網羅している大作で、現代戦においても「戦場の女神」として「山吹色」の輝きを放つている砲兵の全てが理解できる貴重な一冊です。

目次



- 第1部 野戦特科部隊の火力戦闘
 - 第1章 特科部隊の役割
 - 第2章 野戦特科部隊の火力戦闘
 - 第3章 射撃の目的と効果
 - 第4章 現有火砲の機能と運用
 - 第5章 野戦特科の歴代火砲
 - 第6章 地対地ロケットと地対艦ミサイル
 - 第7章 観測、情報処理指揮統制機材
- 第3部 野戦特科部隊史
 - 第8章 警察予備隊～保安隊時代
 - 第9章 創設期の陸上自衛隊と特科部隊
 - 第10章 陸上自衛隊の体制改革と近代化
 - 第11章 戦力基盤の充実と技術革新
 - 第12章 戦力環境の激変と陸上自衛隊の新体制
 - 第13章 新時代の野戦特科部隊